

こころ 世界の詩歌と書のコラボレーション



「TOKYO2020 文化オリンピック」の応援マークはオリンピック・パラリンピック組織委員会から使用を認可されたものです

DGC事業 連続企画

2017年12月～2018年4月

主催:津田塾大学同窓会

会場:千駄ヶ谷キャンパス2階会議室

参加費:1,000円 学生500円 (各講座)

第1回 文化・文明としての文字世界

講師:鈴木董氏(東京大学名誉教授)

【日時】12月16日(土) 13:30-15:30

文化の異なる空間を視覚的にとらえるのに一番よいのは、どんな文字が主に使われているかを見ることです。現代世界の中核を占める異文化の世界としては、最も広がり大きなラテン文字の世界から、我々の属している漢字の世界に至るまで五つの文字世界があります。人類の文明と文化の過去と現在を、文字の広がりとかかわらせながらお話しします。

第2回 日本画と和歌の表現

講師:藤井聡子氏(日本美術院院友、慶應義塾大学非常勤講師)

【日時】1月13日(土) 13:30-15:30

日本画と聞いて、水墨画や浮世絵を思い浮かべる方は多いと思います。実は自国の伝統文化・絵画技法であるにも関わらず、あまり知られていないのが「日本画」です。この日本画の材料や技法を解説し、その魅力に触れていただきたいと思います。また自身の作品である、古今和歌集を自作の仮名料紙に書きしたため、その和歌に合わせて日本画を描いたり、描く植物に合わせて和歌を選んできた経験を、実演や作品を通してお話しします。

第3回 英語の詩歌の翻訳を書にすると

講師:塚本宏氏(和洋女子大学名誉教授、日本書学院参与、雅号・塚本虚齋)

【日時】2月3日(土) 13:30-15:30

前半は、詩歌を書にするための大事なポイントを、実例を見せながらお話しします。後半は、実技の時間となります。受講者各自は、書こうとする(翻訳)詩歌を事前に選んできます。そのイメージの表現・演出の仕方、筆の選び方、墨の濃淡、紙の質・色について学びながら、試し書きをします。そして、最後に作品を仕上げます。

◆準備するもの:小筆(筆ペンも可)、下敷き、あれば書道用具一式、半紙、自分が書きたい詩(英語文およびその他の言語の翻訳作品で、なるべく短いもの〈長いものはお好みのその一節でも可〉)

第4回 英語の詩歌を音と文字で楽しむ

講師:田代尚路氏(大妻女子大学准教授)

【日時】4月6日(金) 13:30-15:30

マザーグース(ナーサリー・ライムズ)をはじめとして英詩にはしばしば脚韻がみられ、同じ音の反復が作りだす響きの美しさを味わうことができます。まずは脚韻を存分に楽しみ、それから脚韻の派生形である「視覚韻」(文字の並びが似た語の反復が生み出す視覚的效果)にも触れてみましょう。

* 当企画をお手伝いしてくださる人を歓迎します。事務局までご連絡ください。

* 受講お申込み先 (For application and more information)

Tel: 03-3478-1972 Email: ogoffice@tsuda-jyuku.org

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24 (一社)津田塾大学同窓会事務局

<http://www.tsuda-jyuku.org/>